

[要約] 沖縄県における 1977-2015 年の間のハブ類咬症の症状ならびに治療の様式 6 — 咬症発生状況の時代変化と加害種間の比較

盛根信也・西村昌彦*・泉水由美子・糸数清正

[Summary] Symptoms and Treatments at the Bites of Viperid Snakes in Okinawa Prefecture from 1977 to 2015 (6) — Periodical Changes and Comparisons among Snake Species of the Situations at Bites

Nobuya MORINE, Masahiko NISHIMURA*, Yumiko IZUMI and Kiyomasa ITOKAZU

全文掲載, All content : <http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/syoho51-55.htm>

Key words: ハブ, サキシマハブ, ヒメハブ, 咬症, 発生状況, 季節, 場所, 時代変化, 種間の比較, 沖縄県, Viperid snake, *Protobothrops flavoviridis*, *P. elegans*, *Ovophis okinavensis*, Bite, Situation, Season, Habitat, Periodical change, Inter-specific difference, Okinawa Prefecture

[要約]

沖縄県で医療機関が調査票に記録したハブ類咬症の受傷や治療に関する情報のうち、1977-2015 年の間のハブ 2730 件, サキシマハブ 1388 件, ヒメハブ 469 件について、咬症発生状況の各項目について 39 年を 3 分割した時代間、ならびにへび種の間で、咬症頻度の比較を行った。

咬症頻度は時代の経過に伴って、受傷場所では庭などとの畑が増加傾向を示し、室内とパイン畑・田、キビ畑で減少傾向が認められた。また、受傷者の年齢は 0-19 歳が初期に高頻度で、70-99 歳が増加傾向を示した。

以下では、加害 3 種の間での頻度の差異を示す。高頻度の季節はサキシマハブでは冬期、ヒメハブでは 10 月で、低頻度の季節はハブでは冬期、ヒメハブでは初夏、サキシマハブでは秋期であった。高頻度の時刻はハブでは夜間、サキシマハブでは日中午後、ヒメハブでは日中午前で、低頻度の時刻はハブでは日中とヒメハブでは夜前半であった。

高頻度の受傷場所はハブでは室内、サキシマハブではパイン畑・田、ヒメハブでは他の畑、低頻度の受傷場所はハブでは他の畑、ヒメハブでは農道と他の道であった。受傷時の人の活動別における高頻度はハブでは室内の活動とハブ扱い中、サキシマハブではキビ刈り中、ヒメハブでは他の農作業中と草刈り中で、低頻度の場所はハブでは草刈り中、ヒメハブでは通行中とキビ刈り中であった。

受傷者の性別での男の頻度はハブで高頻度、ヒメハブで低頻度であった。高頻度の受傷者の年齢はハブでは若

齢、ヒメハブでは高齢で、低頻度の年齢はヒメハブでは 0-49 歳であった。高頻度の受傷部位はハブでは前腕、上腕、下腿、大腿、頭部、サキシマハブでは足指、ヒメハブでは手指で、低頻度の受傷部位はハブでは手指、ヒメハブでは前腕であった。

* 元 沖縄県衛生環境研究所職員